

別記様式

議 事 録

会議の名称	第4回 岩倉市公共施設再配置計画検討委員会
開催日時	平成30年11月27日（火） 10時から11時30分まで
開催場所	市役所 第1委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：秀島委員長、木本副委員長、大野委員、伊藤委員、池山委員、 木村委員、水越委員、井上委員、増田委員 欠席委員：平松委員 説明者：建設部長、都市整備課長、学校教育課長、子育て支援課長、 都市整備課営繕グループ長及び係 コンサルタント：中央コンサルタント
会議の議題	(1) 公共施設再配置計画に関する市民説明会の結果について (2) 公共施設再配置計画（案）及び公共施設長寿命化計画（案）について (3) パブリックコメントについて
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された 資料の名称	・資料1 公共施設再配置計画に関する市民説明会質疑 ・資料2 市民説明会説明資料（再配置計画案） ・資料3 岩倉市公共施設再配置計画（案） ・資料4 岩倉市公共施設長寿命化計画（案） ・資料5 公共施設長寿命化計画基礎資料について ・資料6 公共施設再配置計画策定スケジュール
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	2人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

<p>1 開会 建設部長よりあいさつがされた。</p> <p>2 議事 (1) 公共施設再配置計画に関する市民説明会の結果について 資料1「公共施設再配置計画に関する市民説明会質疑」及び資料2「市民説明会説明資料（再配置計画案）」を基に事務局より説明 委員 長：大勢の市民が参加したとのことであるが、保育園関係の方が多かったのか。</p>

事務局：保育園関係者ばかりでなく、区長等をはじめとして様々な方に参加して頂いた。

委員：今後岩倉市の人口は減少傾向となる見込みであるが、市としてどのように対策していくかの方針は示したか。本計画と直接は関係ないが、岩倉市は5万人以下の都市であり、魅力ある市を目指すのであれば、何かしらの対策を講じなければならないと考えられる。

委員：市民説明会に参加させて頂いたが、再配置による経済効果を意識して語っている人や保育園等の個別の議論を話す方がいて、噛み合っていなかったように思われる。パブリックコメントにおいては、もう少し将来の危険性を訴えかけることが良いと思われる。今後の個別の議論の際は、地域との対話が求められるため、第三者的な意見があった方が良い。

委員長：総合計画のスケジュールを教えてください。

事務局：平成31年度から計画策定作業に取りかかり平成33年度から計画期間となる予定である。また、都市整備課としては、平成33年度にマスタープランを策定する予定である。これまでは、人口増加策を訴えてきたが、今後は現実を見据えつつも、明るい未来を求めるような内容にしたいと考えている。また、本計画の内容を踏まえた組立てとするよう、所管課と調整していく予定である。

委員長：圧倒的多数が公共施設になじみのない人であるため、周知する上ではマンガ版等による工夫が必要と思われる。また、市営住宅はハコモノを廃止してもサービスは適切に維持していくなど、公共施設の存在意義も含めて、総合計画では誤解のないように表現して頂きたいと考えている。

事務局：総合計画には、公共施設の内容を盛り込んでいきたいと考えている。来年度から新しい部署ができれば、分野横断的に調整を図りながら、継続して実施していきたいと考えている。また、来月のパブリックコメントに向けては、回覧等で分かりやすく説明できる資料を作成しているところである。

委員：市民説明会に出席させて頂いたが、参加者が少なく関心がないものと痛感した昨年度に比べ、今年度は周知された結果が功を奏して良かったと思われる。多様な意見を少しでも取り入れて、良い内容の計画にして頂きたい。

委員：今回の市民説明会は平日と休日の2日間であったが、ともに夜の開催であり主婦としては参加しづらいという意見があった。今後は、昼間でも参加できるような工夫が必要であると考えられる。

委員：女性の参加率は三分の一程度であったと思われる。

事務局：夜間のみでの開催であったことは、事務局として反省している。昼間の開催も含めて、今後の検討課題としていく。

委員長：公共施設の議論に限らず、今後は開催時間にも注意して実施していくべきであると考えられる。

委員：アンケートで頂いた意見に対する回答はないのか。

事務局：名前の記載がなく個別の回答は行っていないが、今後の資料作成に活かしていきたいと考えている。

(2) 公共施設再配置計画（案）及び公共施設長寿命化計画（案）について

資料3「岩倉市公共施設再配置計画（案）」、資料4「岩倉市公共施設長寿命化計画（案）」及び資料5「公共施設長寿命化計画基礎資料について」を基に事務局より説明

委員：市民説明会に参加させて頂いたが、保育園の意見が多かったと思われる。7月頃に実施した懇話会後の状況を教えて頂きたい。

事務局：8月2日に最後となる第6回の懇話会を開催し、適正配置方針の考え方を決定した。それを受けて、10月までに計画書の仕上げ作業を行う予定であったが、現在は事務手続き上の関係で遅れている状況である。

委員：懇話会での意見が本再配置計画書にも反映されているという認識で良いか。

事務局：内容については、7月頃に報告したものと大きく変わらず、本計画書の再配置計画案にも反映して頂いている。

委員：本計画書の内容は、今後継続的に見直しを図っていくとのことであるため、保育園についても継続して検討して頂きたい。

事務局：再編の実施時期を迎えた際には、地域住民と向き合って対話していきたいと考えている。

委員：保育園の反対意見に対しては、担当部署としてどのように対応していく予定であるか。

事務局：反対意見は市民説明会の前に既に頂いている。7園全てを存続してほしいという意見については、本来の趣旨から全ての意見を汲み上げることは困難であると説明している。

委員：岩倉市は、保育の充実が住みたい街の1つの条件となっているため、再配置に活かして頂きたい。

事務局：再配置に伴い保育の質が低下するといった意見が多かったため、公立保育園の役割は堅持していくという内容を追加している。

副委員長：市民説明会に参加させて頂いたが、やはり保育園の意見が多いように感じられた。現状維持が困難なことは理解できるが、利用者は統合に対して不安に思うのも当然であるため、視察した春日井市の施設等を例として、再配置による効果を主張すれば、納得して頂けるのではないかと考えている。また、曾野小学校区の児童が現在増加傾向にある中、保育園の数が少ないなど、市は南部地域に冷たいという意見があるため、今後は将来の動向を見ながら検討していく必要がある。

委員：用語集において、ライフサイクルコストやポートフォリオといった専門性が高い用語も入れて頂けると良い。

事務局：今後、内容を精査し見直していく。

委員：委員長から意見があったように、回覧板等で分かりやすく説明して頂きたい。ライフサイクルコストについて、ランニングコストはイニシャルコストの4倍程度とされていることから、そういった事も市民にしっかりと伝え、個別の議論ばかりが出ないようにしていけると良い。日常修繕について、防水層の修繕を後回しにした場合、天井、床の順に劣化が進むことになるため、費用が何倍にも膨張する可能性があることから、予防保全は極めて重要であり、専任部署を設置ししっかりと管理して頂きたい。岩倉市は、小さく住みやすい街であり、五条川をはじめ環境にも恵まれているため、ユニバーサルデザインや学校開放など、市民を巻き込みながら魅力ある街づくりを進めて頂きたい。

事務局：資料5の長寿命化計画の基礎資料について、今回提示した資料からは金額を抜いているが、対策を遅らせるような意図ではなく、実際の修繕等に当たっては再度しっかりと施設の状態を確認し、最も経済的かつ効果的な対策を講じていきたいという考えに立ったものである。

委員長：事後保全から予防保全に転換することで、トータルコストは縮減されると思うが、大規模改修等においては一時的に費用がかかるという認識で良いか。

事務局：日常修繕は現場状況を確認しながら、実態に応じて時期や対策を柔軟に検討していくものとするが、大規模改修等については計画通りにしっかりと実施していきたいと考えている。

委員長：文章の中で工事費を圧縮とあるが、今お話があったような内容とニュアンスが異なるように思われる。

事務局：現在の日常修繕等の試算上の費用は、最大の費用を仮に計上しており、それらを現場状況に応じて圧縮するという意味であったが、誤解を招くため、精査という表現に修正する。

委員：集会施設について、地区によって所有または利用の状況が異なるため、今後は譲渡先や譲渡後のビジョン等を示しながら、話し合いの場を設けていく必要があると考えられる。

事務局：市民説明会の中で、中央町からみどりの家の一部を今後も利用できる状態にして頂きたいといった意見があったように、地区毎に様々な意見があることから、第2期以降は費用負担等を含め、地区毎のバランスを図りながら慎重に検討していく必要がある。

委員：今後はグローバル化が進んでいることから、集会施設のビジョンについてもしっかりと定める必要がある。

委員：市の財源では対応できないようなものについては、広域的な観点から、小牧市の図書館や一宮市の体育館など、他市との共同利用による経費削減策等の工夫も必要である。

委員：今年度にもう1回予定されている市民説明会では、再配置の具体化された事例等を組み込んで頂きたい。

事務局：前回の市民説明会では、資料等に大きな変更点はなかったことから、今年度の市民説明会は前回で最後とする予定である。1月中旬からパブリックコメントを実施するとともに、4月以降は回覧板や広報等により定期的に周知を行い、また保育園などの再編の実施にあたっては、適宜説明会を開催していく予定である。本委員会も、パブリックコメントの内容確認を目的とした2月の開催で最後となる。

副委員長：計画を策定することは重要であるが、今年度に小学校の空調工事を前倒しして実施したように、社会情勢や自然現象等の変化、外国人の増加など、これまで経験したことがないような事象が想定されることから、柔軟に対応して頂きたいと考えている。

委員長：今後の取組みにおいて、施設の利用促進は専任部署だけでなく、所管課毎に検討していく旨を記載した方が良いと思われる。また、民間活用についても、コスト縮減だけではなく、アイデアを活かすのも各所管課が果たすべき内容であることを記載し、自覚をもってもらうことが重要であると考えている。

(3) パブリックコメントについて

資料6「公共施設再配置計画策定スケジュール」を基に事務局より説明
意見、質問等は特になし